



R3.8.20

輪島中
特別号



うた
＜詩先生のひとくちコラム＞

コロナワクチンについて その2



学校医 小浦 詩

夏休みみなさんいかがおすごでしょうか。今回はコロナワクチンに関するお話第二弾です。

前回説明した mRNA ワクチンの新型コロナウイルスワクチンですが、その効果は正直いってかなり優秀です。現在猛威を振るっているデルタ型にもその効果は認められています。ちなみにデルタ型は従来の新型コロナウイルスと比べて感染力が43-90%強く、入院リスク2.2倍・死亡リスク2.37倍と重症化しやすいと報告されています。

そんなデルタ型に対する mRNA ワクチンの予防効果は、感染予防効果79%、発症予防効果88%、入院予防効果96%(イギリスの報告)と、従来のウイルスよりも感染予防効果や発症予防効果が低下する可能性はあるものの、重症化予防効果は保たれていることが示されています。

一方で、ワクチン接種すみの方がデルタ型に感染した場合、自身は重症化しなくとも、周囲に感染を広げる恐れがあるため、ワクチン接種後も手洗い、マスク、三密の回避という基本的な感染対策は重要ということになります。

さて次に、みなさんの最も気になる場所である中学生のワクチン接種に関する情報をお話します。

日本では2021年6月1日から12歳以上のワクチン接種が適用となりました。

日本小児科学会からは以下のことが提言(2021年6月16日)されています。

- ・子どもを新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の成人(子どもに関わる業務従事者等)への新型コロナウイルスワクチン(以下、ワクチン)接種が重要です。
- ・重篤な基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の重症化を防ぐことが期待されます。
- ・健康な子どもへのワクチン接種には、メリット(感染拡大予防等)とデメリット(副反応等)を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。

一般的にワクチン接種については、接種することのメリット(感染しない・重症化しない)がデメリット(副反応)を十分に上回る必要があります。

海外の報告や国内の現時点までのデータでは、コロナウイルスに感染した時に、子供は大人よりも重症化のリスクが低い、一方でワクチンに関しては若い世代の方が発熱や倦怠感などの副反応出現頻度が高い傾向があると考えられています。10万人に1件ほどの稀な頻度ではありますが、若い男性での心筋炎の副反応の報告もあります。

(裏面に続く)

上記提言のように、周囲の成人へのワクチン接種が最優先であり、基礎疾患のある子供たちにおいては接種のメリットがデメリットを上回る可能性が高いため接種が勧められています。

健康な子供を対象とした接種に関しては、ワクチン接種によって感染や重症化を防げるメリットは明らかですが、デメリットと天秤にかけてどうなのかはまだはっきりとした結論が海外でも日本国内でも出ていないというのが現状ではないかと思えます。

実際に海外でも接種対象者の年齢は様々です。(アメリカ:12歳以上推奨、イギリス:重症化リスクの高い基礎疾患がある子供などを除き17歳以下には接種を推奨しない)

各地域の感染状況や各家庭の状況(家族構成や外部との接触の頻度など)を踏まえ、接種を受ける本人と保護者の方がワクチンのメリットデメリットを理解した上で検討していく必要があります。

ワクチンについての質問や相談がある場合は、かかりつけ医にご相談ください。
月いち保健室カフェ [9月30日(木)16:00~17:00] もご利用ください。



夏休みも残り1週間、新学期の準備はできた？



夏休みも残りわずかです。コロナ渦の中、我慢することも多く、いつもとは違う夏休みだったかも知れません。8月30日から2学期がスタートします。夏休み中も、部活動や、体育祭練習、受験勉強などで忙しい日々を過ごした人も多いと思います。新学期、気持ちよくスタートを切るためにも、夏休みの課題を終わらせる。むし歯を治す。眼科へ行く。などやるべきことをやってすっきりしましょう。9月も体育祭、新人戦、修学旅行、文化祭など行事がたくさんあります。健康第一、体調管理をしっかりして今から2学期に向けての準備をしておきましょう!!

